

震災によって見えてきた、 長崎大学の個性

東日本大震災の発生から3カ月が過ぎました。この大震災の前と後では、日本も、そして日本人も大きく変わることでしょう。変わらなければ、この国は今から直面する困難を克服することはできません。このような激動の時代に、アカデミアとしての大学が担うべき役割は決定的に重要です。

この間、長崎大学は大学をあげて支援活動に取り組みました。気がつけば、長崎大学の支援活動は、迅速性、機動性そして質と量——いづれをとっても全国の大学の中で際立っていました。私は、この短い期間に、長崎大学の新しい個性が形作られつつあること、そしてそれが社会に認知されつつあることを実感しています。長崎大学の新たな個性、それは「現場に強い大学、危機に強



い大学、行動する大学」。しかしこれは、長年にわたって本学が蓄積してきたものが、この未曾有の危機に際して突出しただけのことなのです。感染症流行の現場や、被曝事故の被災地に赴き、現場に密着した研究

を蓄積してきた熱帯医学や放射線医療科学の研究者たち。大海に漕ぎ出し、海洋資源や環境の調査に勤しんできた水産学研究者たちなど、長崎大学が築き上げてきた伝統そのものなのです。

この3カ月を通じて、本学の進むべき途が、現場と危機に強い科学のさらなる推進であり、行動する科学者と学生の育成にあることを再認識しました。そしてそのことで、困難を抱える世界とこの国に光を放ち、大きく貢献できることを確信できたのです。

長崎大学長 片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho
Vol.36

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報Choho〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

総力特集 東日本大震災で長崎大学が果たした役割	1
現場に飛び出せ! 躍動するフィールドワーカーたち 最終回 「農」が息づく都市へ	15
温故知新 第4回 ガラス絵「廣東十三行図」	18
オープンキャンパスのお知らせ	20
長崎大学「通」クイズ	21
編集後記	21